

令和5年7月12日

デジタル技術の活用及びDX推進の取り組み状況

みらいず動物病院

1. デジタル技術の重要性

デジタル技術の活用は、顧客満足度を向上させ、当社の競争力に対し好影響を及ぼす非常に重要な要素だと考えています。

具体的には以下の3点より、競合優位性が高まります。

A) 労働生産性の向上

ICUでは酸素濃度・温度を常に自動でコントロールし、これまで手作業で確認していた手間が省かれます。また内視鏡システムの導入により患者動物の早期回復が実現し、入院期間も大幅に短縮されます。最新のデジタル技術を活用することで、院内の労働生産性を向上させます。

B) 見える化の推進

内視鏡システムはこれまで視覚的に把握できなかったペットの術中の状態や生体内の状況を、デジタル技術により飼い主様に目で見て理解していただくことが可能になります。より理解をして頂いた上での治療を進めることで、インフォームドコンセントを徹底します。

C) 安全性の向上

医療現場において、安全性を向上させ医療ミスの可能性を極限まで低くすることは、レピュテーションリスクを低減するためにも非常に重要です。デジタル技術により術中の作業を自動化することで、人為ミスがなくなり、安全性が向上します。

2. 上記を踏まえた弊社の経営ビジョン

「デジタル技術を十分に活用して、高度な腹腔鏡下外科手術とICUを用いた治療を提供する地域初の動物病院へ」

当院は本事業を通じて患者動物への負担が小さく、より早期の回復が期待できる内視鏡システムをコアコンピタンスとする体制構築を実現します。加えて、自動化技術・デジタル技術の活用により当院内と患者動物、飼い主様にとって多くのメリットを持ちます。顧客満足度の向上によって患者数が増加し、経営面で弊社に寄与します。

3. 当社の経営ビジョンの実現のための戦略

- 内視鏡システム・ICU以外にも今後継続的にデジタル化の検討
- デジタルリテラシーを強化する教育
- 上記をより推進するための外部専門家との連携

4. 戦略推進のための組織体制

